

第6回草津栗東認知症連携カンファレンス 質疑概要

令和4年11月10日開催

事例検討①について

Q1：（宮川先生）

包括や行政への報告や連携をしているが、正式に虐待の対応について行政が動いていたのか。

A1：（村田氏）

行政に訪問してもらった。行政や関係者で面談した。最終的に「緊急性あり」と判断があったが、本人の様子を見て分離は難しいとの判断であった。

Q2：（宮川先生）

行政の虐待対応の結果、サービスを増やすことになったのか。

A2：（村田氏）

そもそも家族の希望でサービスを増やすことになっていた。

Q3：（宮川先生）

こういった状況では分離したほうがよいのか。

A3：（村田氏）

判断は難しい。共依存とまではいえるかどうかかわからないが……。どこかしら施設に入ったとしても兄弟ともうまくいかどうか……。

Q4：（zoom 参加者より）

兄の妻の関わりがあるか。

A4：（村田氏）

関わりはある。妻には冷静に対応をしてもらっている。

Q5：（zoom 参加者より）

ご本人への支援と家族（兄夫婦）への支援をどのように関係機関で役割分担をされていますか。

A5：（村田氏）

役割分担はしていない。

Q6：（zoom 参加者より）

行政の積極的な介入は、どのタイミングで検討されるのでしょうか。

A6：（村田氏）

身体的な虐待がみられ、事実が分かってきた。ケンカの場面も見ていたので判断できた。

（宮川先生コメント）

暴言などの段階では通報の判断は難しい。

Q7：（宮川先生より）

養護者にどのように支援をしていく必要があると考えたか。

A7：（村田氏）

養護者の方は虐待をしている自覚が薄い。虐待なんですと伝えるが、なかなか伝わらず困った。

（宮川先生コメント）

自分が虐待をしていると疑われていることで、養護者が感情的になられ、怒鳴り散らすケースなどもあり、養護者の支援は大事だが難しい。

事例検討②について

Q1：（zoom 参加者より）

事例の夫婦は 10 年ほど家庭内別居とのことですが、それまでの夫婦関係について、子どもさんから聞いておられますか。たとえば、DV など。共依存関係はどうでしたか。

A1：（宮川先生）

妻が認知症になる前は、DV や共依存はないと思う。妻は非常に気の強い方だと思うが、DV はなかった。

Q2：（zoom 参加者より）

家庭内別居は妻の認知症が進行したことにより、生じたことでしょうか。

A2：（宮川先生）

家庭内別居は認知症とは関係ない。10 年前からのことなので。虐待が起こったのは妻の認知症による影響が多い。

事前質問：「心理的虐待を受けている方の精神状態について、支援者が理解しておくこと、また、心理的虐待の解消支援についてどのような方法があるか。」について

（宮川先生コメント）

心理的虐待を受けている人の中には、はっきり虐待をうけているか分かっていない人がいる。また認知症が進行していると、虐待を受けても忘れてしまうため、そのことで悩み続けられないこともある。しかし、今、怒鳴られたときに、イヤだと思ふことは、認知症があっても変わらない。後で忘れているから問題がないということではない。養護者の要因として、ケース 2 の夫のように、本人が忘れてしまうことが理解できず、「本人からからかわれている」と養護者が思うこともある。認知症の症状に関する理解が十分でないことから心理的虐待が起こっている。こういう場合は養護者に理解を促すことが必要。あとは、一般的に介護サービスを使い、心理的・物理的に距離をあけて、ストレスを軽減することが必要。

全体をとおしての質問

Q1：（会場参加者より）

認知症にかかわらず、養護者が最後まで家で看たい人、すぐに施設に入れようとする人もいる。最初はよかったが、結果的に虐待に至ってしまうことがある。介護の意欲はわかるが、この状態では難しいのでは、このタイミングでは難しいのでは、家族の意欲は認めるが難しいと思うことはどのようなことか。

A1：（宮川先生）

答えるのが難しいが、示したデータで、認知症の軽いときに心理的虐待が多い。本人が元気なために養護者から言われたことに反発し、口論になることから心理的虐待につながってしまう。特にアルツハイマー型認知症は、記憶の障害が強

いので、本人と養護者の間で言った・言わないという行き違いになりやすい。レビー小体認知症の場合は、幻覚の有無をめぐって、本人と養護者の間で言い争いになりやすい。認知症の原因疾患によって、このような行き違いを起こしやすいパターンはあるが、どの疾患だから虐待になりやすい、というのではないかと思う。養護者が疾患を理解できるかどうか大きい。

Q2：（zoom 参加者より）

共依存関係にある方（親子や夫婦）への支援に難しさを感じています。共依存関係の方に虐待が生じるとさらに難しく感じます。共依存関係の方に対する支援方法のヒントやポイントはあるでしょうか。

A2：（宮川先生）

共依存は閉じた関係を作ってしまうため、周りの介入を許さないことが多い。周囲が一生懸命に支援しようとすればするほど頑なになって支援を受け入れない。これに対しては、まず養護者の頑張りを認めることが大切で、養護者を非難することは好ましくない。サービス使え・使えと周囲から言われると、頑張りを認めてもらえないという思いが生じ、養護者が被害的になる。養護者が被害的にならないよう、頑張りを認めながら徐々に支援することが必要。

以上